

下記大会に参加した際に同行した審判員の方々から伺ったお話や、自身で感じたこと、個人的な感想などを掲載させていただきます。ご一読いただければ幸いです。

2014. 09 大分県協会 内海 秀昭

レフェリーレポート



【参加大会】

平成26年度 全国中学校体育大会（愛媛県松山市）・・・H26. 8. 17（日）～20（水）

○研修会

審判研修会では四国ブロック武智審判長よりハンドボールの概念、レフェリーの仕事の目的、プレーの評価とプレーの予想、罰則判定時の注意点（罰則を探し出さない）などについて説明があったほか、『よく観察するためにより位置取りをする』ことを念頭に、コートレフェリー、ゴールレフェリーの位置取りについて詳細に説明がありました。



左：基本的なレフェリーの役割



右：マンツーマンディフェンス時の位置取り

※レフェリーハンドブック 2014 より抜粋しました。

上記の位置取り、役割分担などはレフェリーハンドブックなどにも記載がありますが、研修会で取り上げていただき改めて認識すること、ペアと議論すること、試合で実践することがより深い理解につながったと感じています。

また、ビデオによりオフENSIBフアウル（チャージング）とディフェンス側のフアウルの事例についても説明がありました。最近ではウィングポジションでの攻防も激しくなっており、GRはより良い位置取りでよく観察することが求められています。（ラインクロスを見てしまいがちですが、全体のアクションを観ることが大切）

○大会

今大会は堀川審判員とペアを組み、3日間、合計4試合を担当させていただきました。

今大会、自分たちにとっては『正しいジェスチャー』、『正しい位置取り』、チームにとっては『スピーディな展開』、『危険なプレーの排除』を1試合通して示せるよう常に心がけて審判を担当しました。

判定の面では、大会序盤では個人として判定にややばらつきがあり、両チームベンチにはゲームに集中してもらうことはできなかったように感じます。ただ、オフenseファウルとディフェンスファウルの線引きはペアで統一できていた部分もあり、全体的な基準としては大きく崩れることはなかったかと思えます。

「レフェリーのジャッジは、60分間のうち59分問題がなくても、1分でもミスジャッジがあると命取りになる」と、ある研修会で聞いたことがあります。まさにそれを痛感したところです。

判定の一貫性、判断基準の正しい適用、アドバンテージの適用、危険なプレーへの正しい罰則の適用など、集中力の持続がやはり重要になってきます。

大会終盤ではスピーディな展開のゲームが多く、我々としても前日までの反省をもとにゲームの流れを崩さずに、冷静に試合を運ぶことができたのではないかと思います。

『プレーを見届けることが、スピード以上に重要である』とハンドブックにも書かれていますが、例えばターンオーバーでのシュートチャンスの局面での判定には、レフェリーの位置取りが何より説得力を持つものであるため、よく観察できる位置取りを常に考える必要があり、それを実践できた部分も多かったと感じています。

また、判定に関しては色々な視点・意見があると思いますが、『反則を探し出す』ことに繋がりがねないため、ペアとしては基準を一貫して適用することを心掛けて試合を担当しました。

【審判員の確保】

本県のみならず、上級審判員の定年に伴う中堅年齢層の空洞化が問題となっている県もありました。本レポート等を通じて、ブロック大会や全国大会で得た知識・情報等をお知らせすることで、本県若手審判員が上級審判員を目指す際の参考にしていただくと幸いです。